

2018年1月25日

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

ブライダル総研 結婚総合意識調査2017

- 結婚の意義は「今後の人生を過ごすための場づくり」
- 結婚後の生活の変化において、「経済的安定」「自由度」が増加。経済的・時間的制限がなくなり、結婚生活に対する意識が変化しつつある

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ(本社:東京都中央区 代表取締役社長 山口 文洋)が運営するリクルートブライダル総研では、結婚や結婚式について詳細を把握するために、「結婚総合意識調査2017」を実施しました。ここに、調査結果の要旨をご報告いたします。

<結婚や結婚生活に対する考え方> ……P3~5

結婚に対する考え方において、「子ども」や「老後の家族像」に関する項目の割合が高く、結婚は「今後の人生を過ごすための場づくり」の意味合いが強い。一方で、「結婚しなくても幸せ」が増加、「子どもを作るのであれば、結婚すべきである」が減少し、多様な生き方や価値観が許容されつつある

- 結婚に対する考え方の上位2項目は、「子どもを作るのであれば、結婚すべきである」(76.2%)、「老後は家族(配偶者や子ども)がいた方がよい」(75.6%)。
- 2014年調査と比較し、最も増加した項目は「一生結婚しなくても(独身でも)幸せだ」(6.8ポイント増)。一方、減少幅が最も大きかったのは「子どもを作るのであれば、結婚すべきである」(5.9ポイント減)

結婚後の生活の変化において、男女とも「経済・生活安定」が増加傾向。加えて女性は「自由度」の増加割合も上位に。結婚生活に対する意識が変化している

- 男性の結婚後の生活の変化において、2014年調査から変化している上位5項目は、「親戚づきあいなどが増えて面倒だ」「経済的に裕福になる」「精神的安定が得られる」「経済的に安定する」「家族としての絆が得られる」
- 女性の結婚後の生活の変化において、2014年調査から変化している上位5項目は、「経済的に裕福になる」「生活レベルが上がる」「経済的に安定する」「やりたい仕事ができる」「やりたいことが自由にできる」

結婚式に対する考え方において、特に女性は、男性と比較し、「昔からの憧れ」「素敵だ」「感動する」などポジティブにとらえている割合が高い

- 結婚式に対する考え方において、上位3項目は、「段取りや準備は面倒だ」(69.9%)、「行くことは、親孝行になる」(64.7%)、「感動する」(64.3%)。
- 結婚式に対する考え方において、男性と比較し、女性の方が高い上位3項目は、「昔から憧れていた」(23.5ポイント差)、「素敵だ」(22.6ポイント差)、「感動する」(19.6ポイント差)。

<結婚式の実施状況> ……P6~9

8割以上が、結婚を機としたセレモニーを実施

- 結婚を機としたセレモニー実施者は85.2%。全くの非実施は14.8%。

20代、30代の7割前後は挙式、披露宴・披露パーティを実施(いずれかを含む)

- 年代別の挙式、披露宴・披露パーティ実施割合(いずれかを含む)は、20代は71.9%、30代は67.9%、40代は44.3%。

「再婚層」の挙式、披露宴・披露パーティ実施割合(いずれかを含む)は約4割。「妊娠層」は4割超で、前年調査より増加

- 初再婚別の挙式、披露宴・披露パーティ実施割合(いずれかを含む)は、新郎・新婦ともに初婚者は72.1%、いずれかまたは両方再婚者は38.9%。
- 結婚を決めた当時の妊娠状況において、新婦が妊娠していた層の挙式、披露宴・披露パーティを実施割合(いずれかを含む)は46.3%で、前年調査より5.9ポイント増加。

◆ 出版・印刷物へデータを転載する際には、「結婚総合意識調査2017(リクルートブライダル総研調べ)」と明記いただきますようお願い申し上げます。

◆ 「結婚総合意識調査2017」の詳細は、下記広報担当までご連絡ください。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにない、出会い。」を届けることを目指していきます。

[本件に関するお問い合わせ先]

http://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要と回答者のプロフィール】

■2017年調査

本調査(予備調査含む)

【調査方法】インターネットによるアンケート調査

【調査期間】2017年4月7日(金)～2017年5月2日(火)

【調査対象】“結婚した時期”を「2016年4月～2017年3月」と回答した、20～49歳の既婚者

【集計サンプル数】1500人

割付:「厚生労働省 人口動態統計の平成27年度婚姻件数」を基に全国を18エリア毎の婚姻件数比率に近くなるようにサンプル数を割り付けた

【回答者の男女別結婚時の年齢×居住地域】

		北海道	東北	北関東	北陸甲信越*	首都圏*	東海*	関西*	中国	四国	九州・沖縄
男性	20代(19歳含む)	7	8	10	5	47	18	34	17	8	20
	30代	17	26	21	25	111	29	56	21	7	41
	40代	5	12	8	29	79	21	30	3	5	25
女性	20代(19歳含む)	15	22	17	33	118	37	63	24	10	47
	30代	11	19	18	29	102	27	52	16	7	34
	40代	4	5	3	1	16	4	6	2	4	5

*「北陸甲信越・男性」「首都圏・男性」「首都圏・女性」「東海・女性」「関西・男性」の年齢について、結婚時の年齢が不明だったサンプルが各1～2サンプルあり、年齢別分析では除いている

■過去調査の概要

	2016年調査:本調査(予備調査含む)	2015年調査:本調査(予備調査含む)	2014年調査:本調査(予備調査含む)
調査方法	インターネットによるアンケート調査	インターネットによるアンケート調査	インターネットによるアンケート調査
調査期間	2016年4月8日(金)～ 2016年5月30日(月)	2015年4月8日(水)～ 2015年5月7日(木)	2014年5月17日(土)～ 2014年6月19日(木)
調査対象	結婚した時期が「2015年4月～ 2016年3月」の20～49歳既婚者	結婚した時期が「2014年4月～ 2015年3月」の20～49歳既婚者	結婚した時期が「2013年4月～ 2014年3月」の20～49歳既婚者
集計サンプル	1500人	1500人	1498人
割り付け	厚生労働省「人口動態統計の婚姻件数*」を基に、18エリア毎の婚姻件数比率に近くなるようにサンプル数を割り付けた		

*2016年調査は平成26年度、2015年調査は平成25年度、2014年調査は平成24年度の件数

【回答者の男女別結婚時の年齢×居住地域】

	2016年調査						2015年調査						2014年調査					
	男性			女性			男性			女性			男性			女性		
	20代	30代	40代	20代	30代	40代	20代	30代	40代	20代	30代	40代	20代	30代	40代	20代	30代	40代
北海道	6	15	13	13	10	7	8	13	10	8	19	3	14	14	3	20	10	0
東北	12	20	17	26	19	2	13	21	14	27	17	2	13	24	11	29	17	1
北関東	7	16	9	18	18	2	13	20	6	16	19	2	14	15	10	22	14	2
北陸甲信越	18	33	17	38	24	2	17	36	12	44	19	1	16	35	13	36	26	2
首都圏	46	129	63	117	103	15	58	116	61	118	93	23	59	124	51	121	101	13
東海	17	36	12	42	21	6	31	28	9	44	21	4	18	34	17	35	30	4
関西	18	79	27	66	46	9	31	60	30	58	52	12	31	53	30	71	41	9
中国	11	17	7	21	19	1	9	25	9	19	16	6	12	18	12	24	17	0
四国	10	14	1	7	12	1	9	8	4	8	11	1	7	11	3	12	7	1
九州・沖縄	19	38	19	47	32	6	20	37	21	37	40	9	29	37	20	58	23	3

※各年:20代には19歳を含む

※2016年調査:「北関東・男性」「首都圏・男性」「中国・男性」「九州・沖縄・男性」に結婚時の年齢が不明だったサンプルが各1サンプルあり、年齢別分析では除いている

※2015年調査:「関西・男性」「北関東・女性」に結婚時の年齢が不明だったサンプルが各1サンプルあり、年齢別分析では除いている

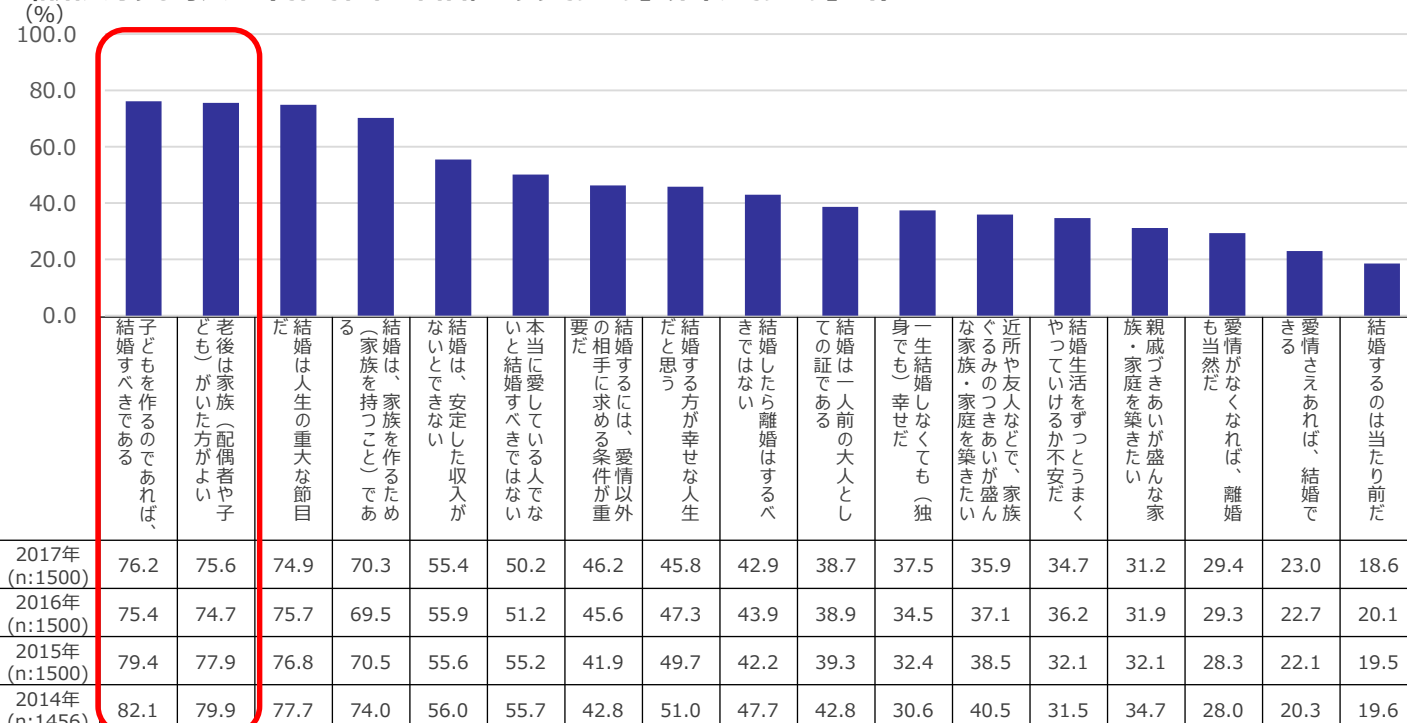
※2014年調査:「首都圏・男性」に結婚時の年齢が不明だったサンプルが1サンプルあり、年齢別分析では除いている

結婚に対する考え方(経年比較)

結婚に対する考え方において、「子ども」や「老後の家族像」に関する項目の割合が高く、結婚は「今後の人生を過ごすための場づくり」の意味合いが強い。一方で、「結婚しなくても幸せ」が増加、「子どもを作るのであれば、結婚すべきである」が減少、多様な生き方や価値観が許容されつつある

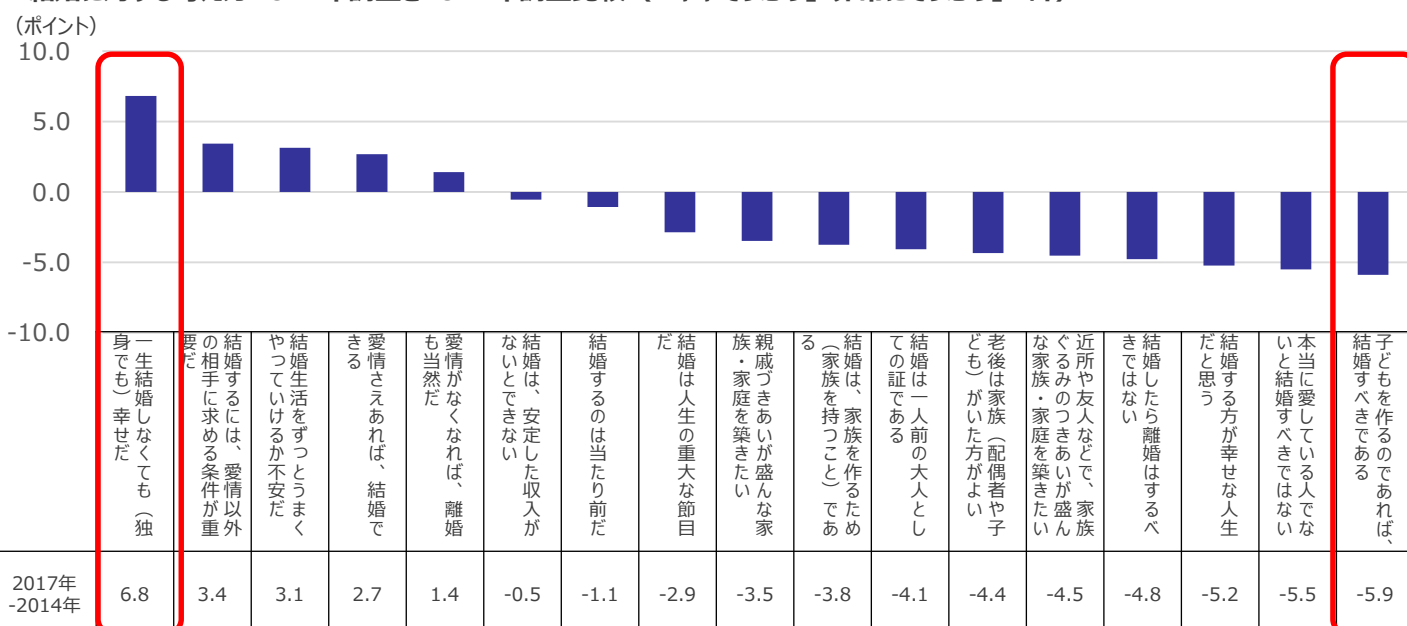
- 結婚に対する考え方の上位2項目は、「子どもを作るのであれば、結婚すべきである」(76.2%)、「老後は家族(配偶者や子ども)がいた方がよい」(75.6%)。
- 2014年調査と比較し、最も増加した項目は「一生結婚しなくても(独身でも)幸せだ」(6.8ポイント増)。一方、減少幅が最も大きかったのは「子どもを作るのであれば、結婚すべきである」(5.9ポイント減)

■結婚に対する考え方(それぞれ単一回答/「ややそう思う」「非常にそう思う」・計)



※2017年の降順でソート

■結婚に対する考え方2017年調査と2014年調査比較(「ややそう思う」「非常にそう思う」・計)



※ポイントは四捨五入の関係で、割合の計算値と一致しない場合がある

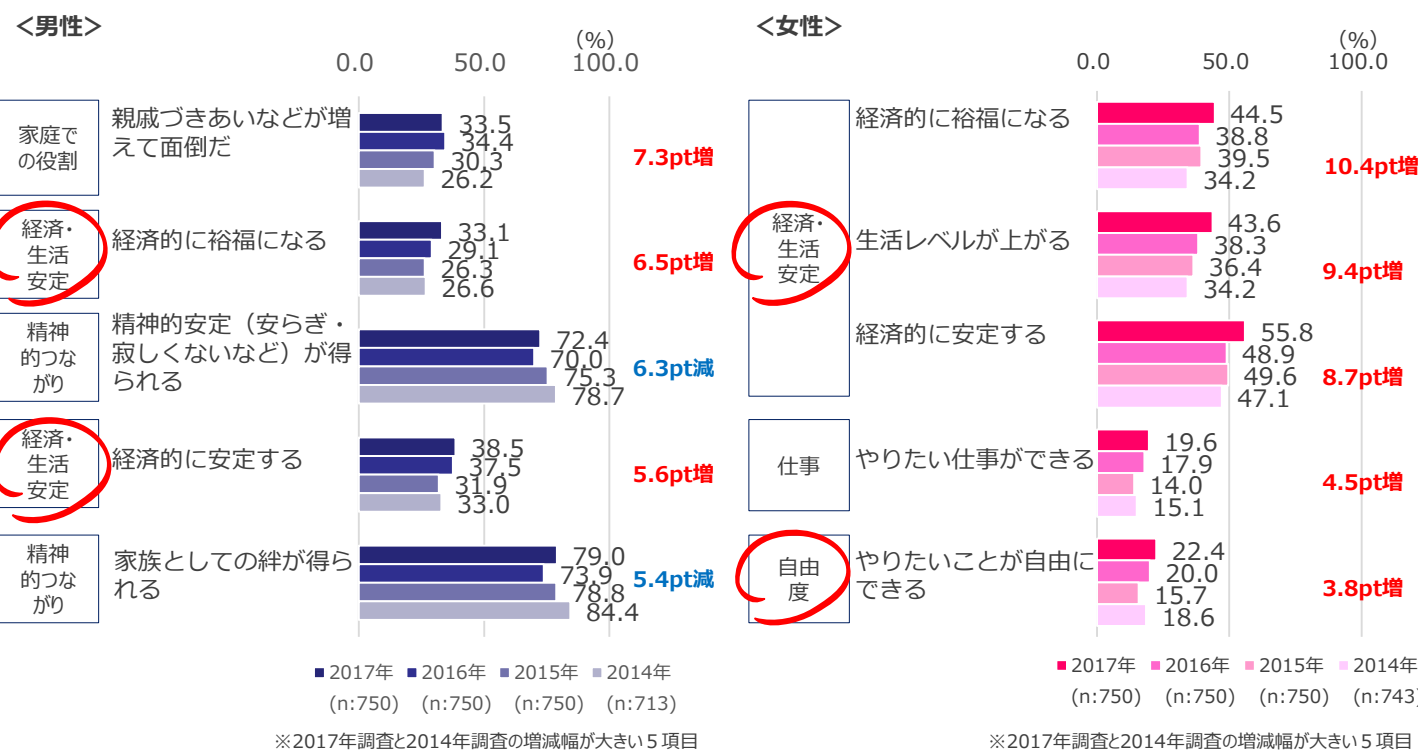
※差の大きい順にソート

結婚生活観 [結婚して生活がどのように変わったか] (男女別/経年比較)

結婚後の生活の変化において、男女とも「経済・生活安定」が増加傾向。加えて女性は「自由度」の増加割合が上位に。結婚生活に対する意識が変化している

- ▶ 男性の結婚後の生活の変化において、2014年調査から変化している上位5項目は、「親戚づきあいなどが増えて面倒だ」「経済的に裕福になる」「精神的安定が得られる」「経済的に安定する」「家族としての絆が得られる」
- ▶ 女性の結婚後の生活の変化において、2014年調査から変化している上位5項目は、「経済的に裕福になる」「生活レベルが上がる」「経済的に安定する」「やりたい仕事ができる」「やりたいことが自由にできる」

■結婚生活観[結婚して生活がどのように変わったか] 2014年調査と2017年調査の変化が大きい上位5項目 (それぞれ単一回答/「ややそう思う」「非常にそう思う」計/男女別)



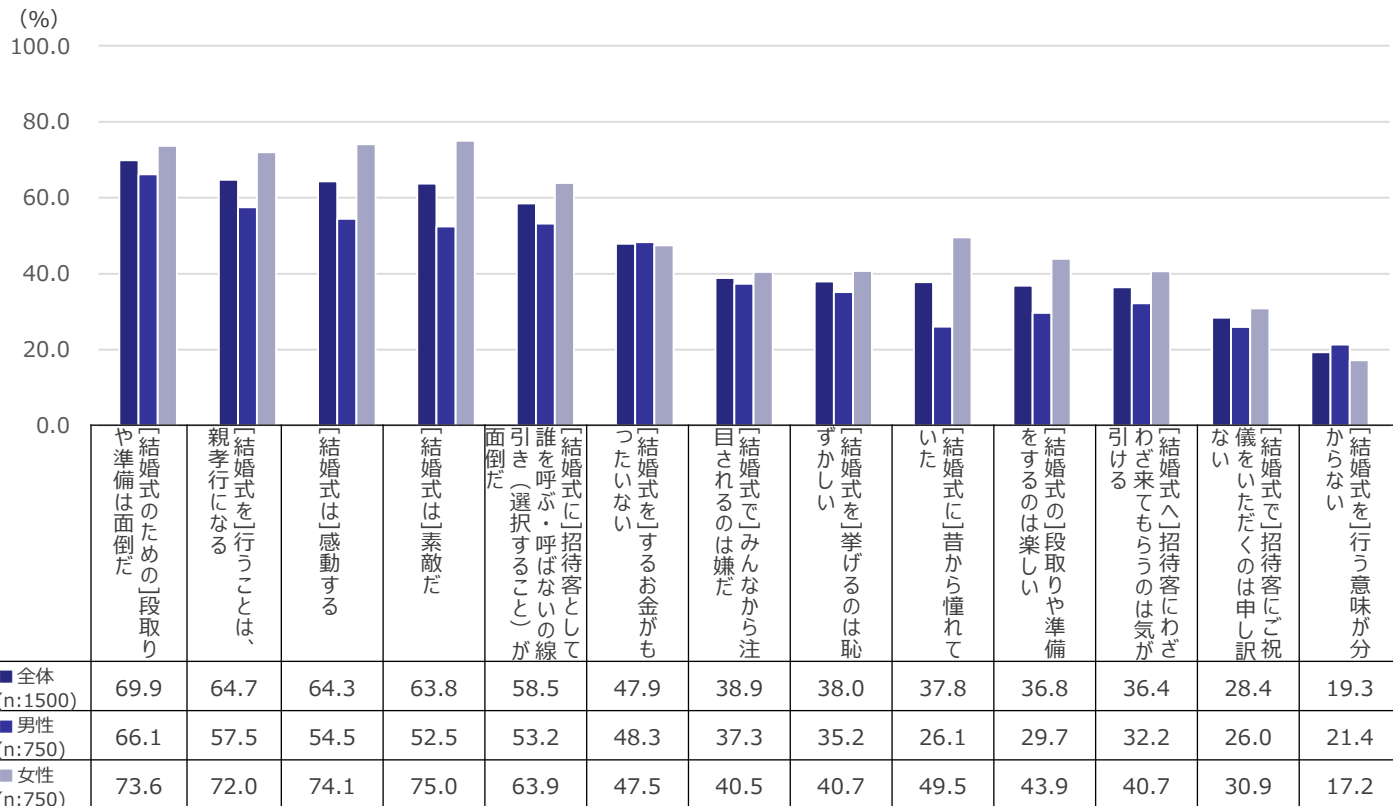
		男性				女性			
		2014年 (n:713)	2015年 (n:750)	2016年 (n:750)	2017年 (n:750)	2014年 (n:743)	2015年 (n:750)	2016年 (n:750)	2017年 (n:750)
精神的つながり	家族としての絆が得られる	84.4	78.8	73.9	79.0	86.3	86.7	84.4	85.3
	好きな人と一緒にいられてうれしい	81.1	75.7	73.9	76.2	86.0	83.7	82.9	85.1
	精神的安定(安らぎ・寂しくないなど)が得られる	78.7	75.3	70.0	72.4	81.4	81.5	81.5	82.4
経済・生活安定	経済的に安定する	33.0	31.9	37.5	38.5	47.1	49.6	48.9	55.8
	経済的に裕福になる	26.6	26.3	29.1	33.1	34.2	39.5	38.8	44.5
	生活が便利になる	44.0	44.1	41.6	47.4	39.2	37.9	37.6	42.3
仕事	生活レベルが上がる	39.0	39.2	37.5	41.9	34.2	36.4	38.3	43.6
	仕事に打ち込める	39.1	38.1	36.8	39.3	17.9	18.4	20.0	20.4
自由度	やりたい仕事ができる	19.2	20.0	23.1	23.5	15.1	14.0	17.9	19.6
	やりたいことが自由にできる	8.7	9.6	14.1	13.9	18.6	15.7	20.0	22.4
社会的信用	自由な時間が増える	9.1	8.9	12.7	12.0	20.9	18.1	21.5	24.2
	社会的に信用される	61.3	59.3	56.4	56.8	53.7	56.5	57.6	55.8
家庭での役割	家事的負担が増える	38.0	36.3	36.9	36.6	68.8	66.3	66.9	66.1
	子育てに苦労する	32.3	31.7	32.3	32.8	29.6	27.2	31.2	30.0
	親戚づきあいなどが増えて面倒だ	26.2	30.3	34.4	33.5	42.4	43.1	42.9	43.4
	相手の親の面倒をみなくてはならない	28.2	28.9	29.1	29.5	38.2	38.7	37.9	37.5
	性的な充足が得られる	40.1	38.9	40.0	42.3	35.7	35.6	36.4	37.6

結婚式に対する考え方(男女別)

結婚式に対する考え方は「準備が面倒」が高いものの、「親孝行になる」「感動する」「素敵」も高い。特に女性は、男性と比較し、「昔からの憧れ」「素敵だ」「感動する」などポジティブにとらえている

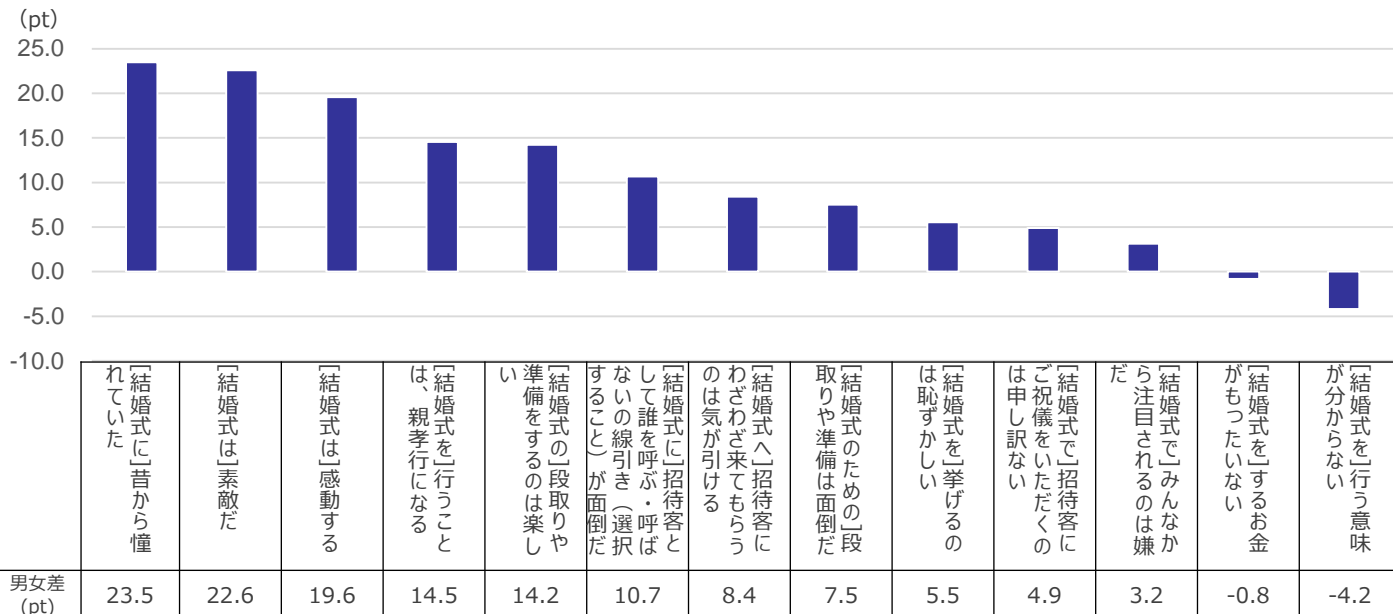
- 結婚式に対する考え方において、上位3項目は、「段取りや準備は面倒だ」(69.9%)、「行うことは、親孝行になる」(64.7%)、「感動する」(64.3%)。
- 結婚式に対する考え方において、男性と比較し、女性の方が高い上位3項目は、「昔から憧れていた」(23.5ポイント差)、「素敵だ」(22.6ポイント差)、「感動する」(19.6ポイント差)。

■ 結婚式に対する考え方 (それぞれ単一回答/「ややそう思う」「非常にそう思う」・計/男女別)



※全体の降順でソート

■ 結婚式に対する考え方の男女比較 (「ややそう思う」「非常にそう思う」・計/男女別)

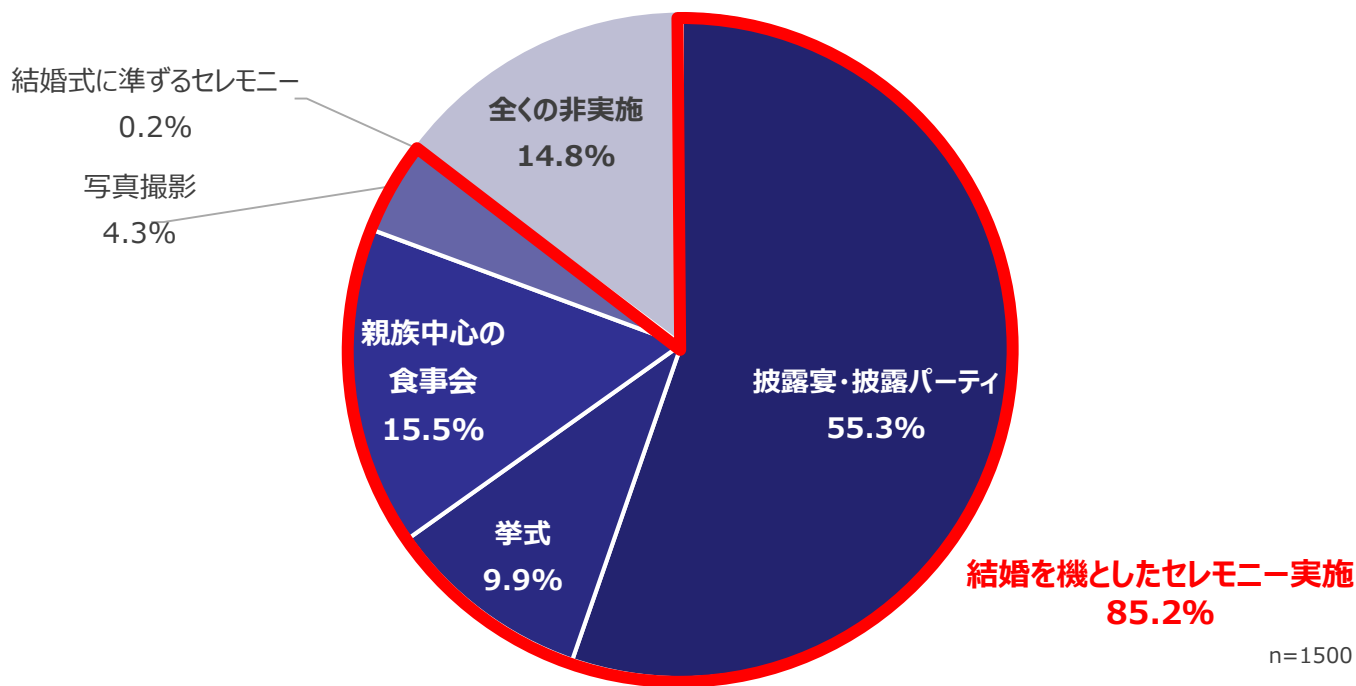


※ポイントは四捨五入の関係で、割合の計算値と一致しない場合がある

※女性の方が高い降順でソート

結婚を機としたセレモニー実施割合は85.2%。「全くの非実施」は14.8%にとどまる

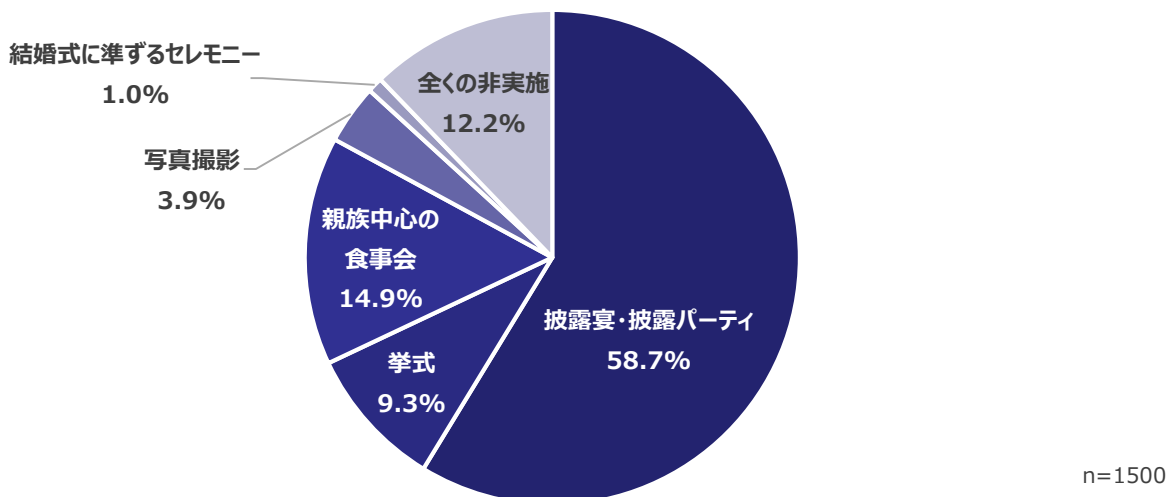
■結婚を機としたセレモニー実施状況



- **披露宴・披露パーティ実施者**：「披露宴・披露パーティ実施かつ、挙式、親族中心の食事会、写真撮影、結婚式に準ずるセレモニーのいずれか、あるいはすべて実施」と「披露宴・披露パーティのみ実施」
- **挙式実施者**：「挙式実施かつ、親族中心の食事会、写真撮影会、結婚式に準ずるセレモニーのいずれか、またはすべて実施」と「挙式のみ実施」
- **親族中心の食事会実施者**：「親族中心の食事会実施かつ、写真撮影会あるいは結婚式に準ずるセレモニーのいずれか、または両方実施」と「親族中心の食事会のみ実施」
- **写真撮影会実施者**：「写真撮影会実施かつ、結婚式に準ずるセレモニー実施者」と「写真撮影会のみ実施者」
- **結婚式に準ずるセレモニー実施者**：「結婚式に準ずるセレモニーのみ実施者」

<参考> 結婚を機としたセレモニー実施状況（2016年調査）

※2017年調査とは聴取方法が異なるため、参考値

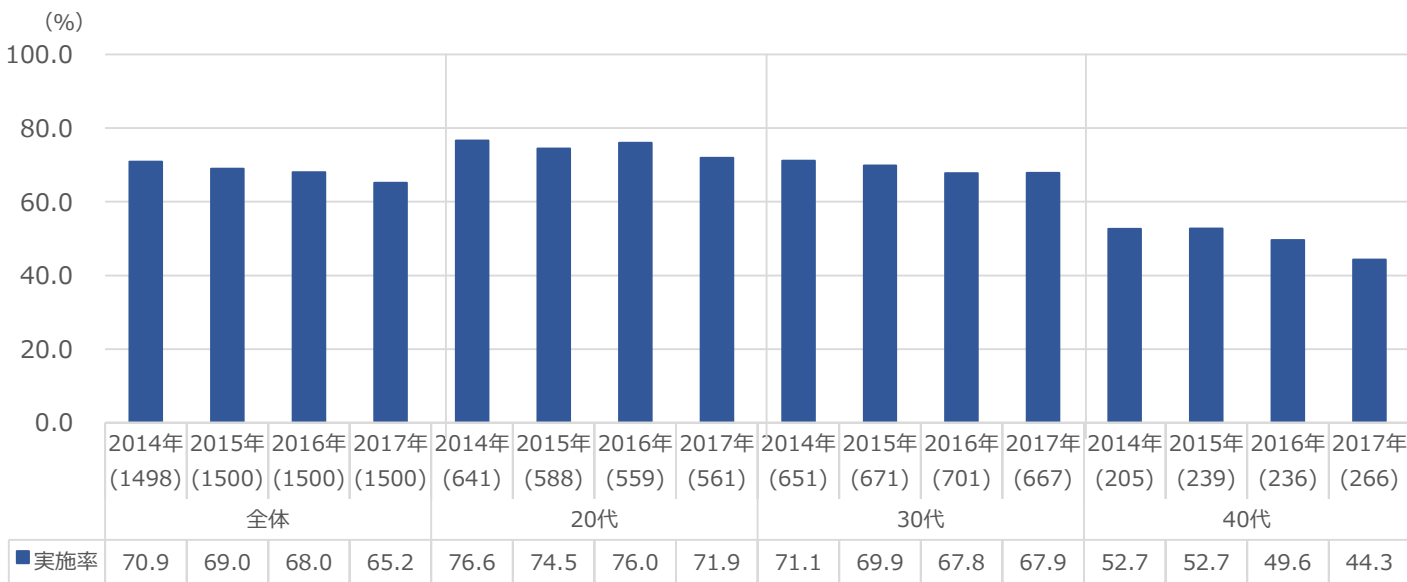


挙式、披露宴・披露パーティの実施率（本人結婚時の年代別）

20代、30代の7割前後は結婚式を実施

➤ 年代別の挙式、披露宴・披露パーティ実施割合（いずれかを含む）は、20代は71.9%、30代は67.9%、40代は44.3%。

■ 挙式、披露宴・披露パーティ実施割合（いずれかを含む）（単一回答／年代別）



※（カッコ）内はn数

■ 挙式、披露宴・披露パーティの実施状況（単一回答／年代別）

(%)

	全体				20代				30代				40代			
	2014年 (1498)	2015年 (1500)	2016年 (1500)	2017年 (1500)	2014年 (641)	2015年 (588)	2016年 (559)	2017年 (561)	2014年 (651)	2015年 (671)	2016年 (701)	2017年 (667)	2014年 (205)	2015年 (239)	2016年 (236)	2017年 (266)
挙式、披露宴・披露パーティ ともに実施	60.3	58.9	57.7	53.6	67.6	67.0	69.6	64.0	60.5	58.1	55.3	53.9	37.1	41.0	36.4	31.4
挙式のみ実施	8.4	9.3	9.3	9.9	7.6	7.3	5.9	7.3	7.7	10.7	11.3	12.2	13.2	10.0	11.4	9.2
披露宴・披露パーティのみ実施	2.2	0.8	1.0	1.7	1.4	0.2	0.5	0.6	2.9	1.0	1.1	1.8	2.4	1.7	1.7	3.7
挙式、披露宴・披露パーティ ともに非実施	29.1	31.0	32.0	34.8	23.4	25.5	24.0	28.1	28.9	30.1	32.2	32.1	47.3	47.3	50.4	55.7

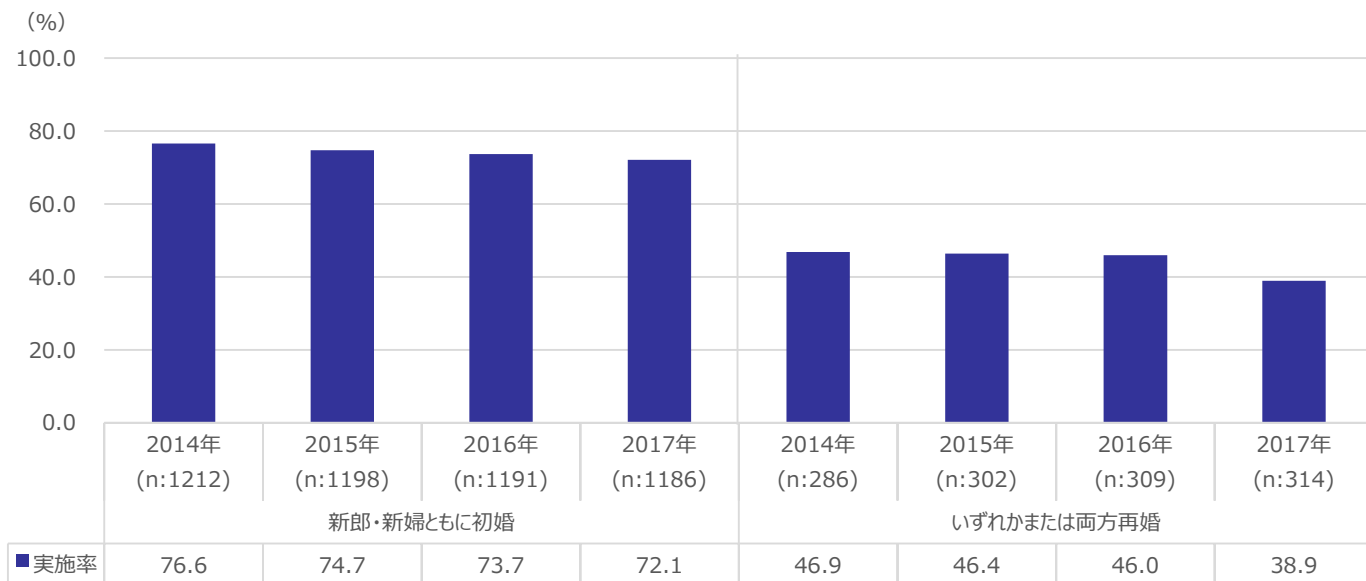
※（カッコ）内はn数

挙式、披露宴・披露パーティの実施率（初再婚別）

再婚層の結婚式実施割合は約4割

➤ 初再婚別の挙式、披露宴・披露パーティ実施割合（いずれかを含む）は、新郎・新婦ともに初婚者は72.1%、新郎・新婦のいずれかまたは両方再婚者は38.9%。

■ 挙式、披露宴・披露パーティ実施割合（いずれかを含む）（単一回答／初再婚別）



■ 挙式、披露宴・披露パーティの実施状況（単一回答／初再婚別）

(%)

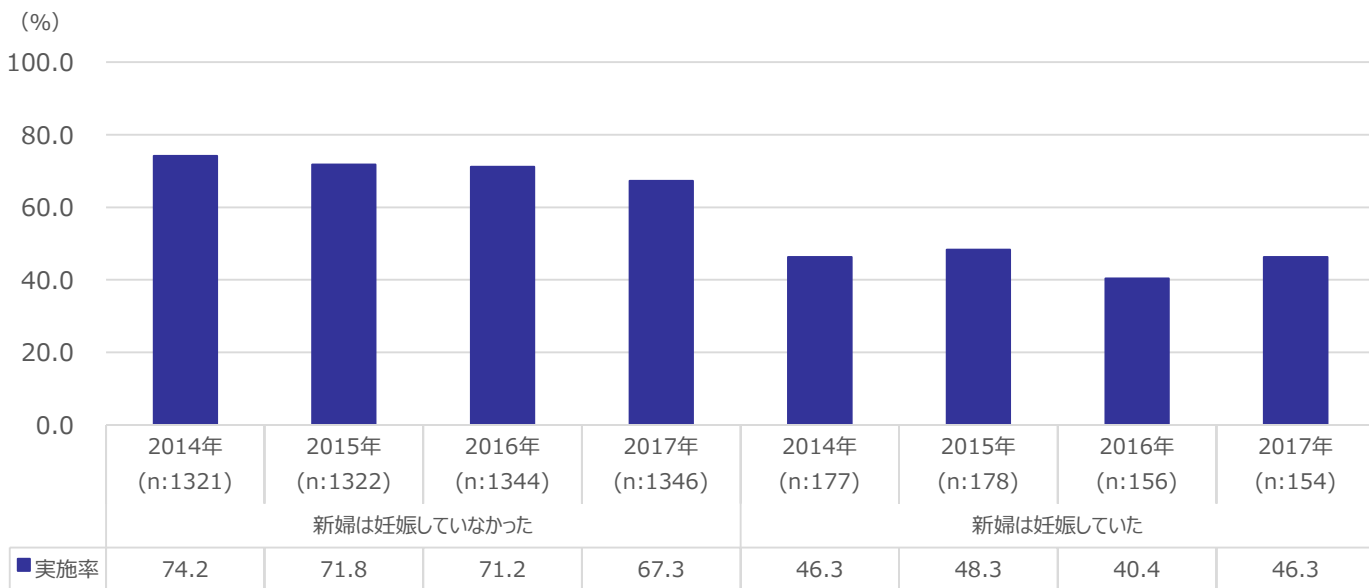
	新郎・新婦ともに初婚				いずれかまたは両方再婚			
	2014年 (1212)	2015年 (1198)	2016年 (1191)	2017年 (1186)	2014年 (286)	2015年 (302)	2016年 (309)	2017年 (314)
挙式、披露宴・披露パーティともに実施	66.7	65.2	64.0	60.8	32.9	34.1	33.7	26.7
挙式のみ実施	8.1	8.8	8.8	9.9	9.8	11.3	11.0	9.7
披露宴・披露パーティのみ実施	1.7	0.8	0.9	1.4	4.2	1.0	1.3	2.5
挙式、披露宴・披露パーティともに非実施	23.4	25.3	26.3	27.9	53.1	53.6	54.0	61.1

※（カッコ）内はn数

妊娠層の実施割合は、前年調査から増加

- 結婚を決めた当時の妊娠状況において、新婦が妊娠していた層の挙式、披露宴・披露パーティ実施割合（いずれかを含む）は46.3%で、前年調査より5.9ポイント増加。

■ 挙式、披露宴・披露パーティ実施割合（いずれかを含む）（単一回答／結婚を決めた時の妊娠状況別）



■ 挙式、披露宴・披露パーティの実施状況（単一回答／結婚を決めた時の妊娠状況別）

	新婦は妊娠していなかった				新婦は妊娠していた			
	2014年 (1321)	2015年 (1322)	2016年 (1344)	2017年 (1346)	2014年 (177)	2015年 (178)	2016年 (156)	2017年 (154)
挙式、披露宴・披露パーティともに実施	63.1	61.3	60.0	55.4	39.5	41.0	37.8	37.7
挙式のみ実施	8.9	9.6	10.1	10.2	4.5	6.7	1.9	7.0
披露宴・披露パーティのみ実施	2.2	0.8	1.0	1.7	2.3	0.6	0.6	1.6
挙式、披露宴・披露パーティともに非実施	25.8	28.2	28.8	32.7	53.7	51.7	59.6	53.7

※（カッコ）内はn数